



源田河岸の常総渡船(昭和40年)



常総船橋の開通(昭和42年)

利根川は、江戸時代から物資輸送の流通経路として盛んに利用されました。また、川沿いにある河岸は、成田山参詣への上陸地としてにぎわい、下総町の暮らしは、昔から利根川に支えられ栄えてきました。

古くは高瀬舟が、明治時代になると近代化を象徴する蒸気船が就航し、定期船が頻繁に行き交いました。

下総町の高岡地区と茨城県河内町を結ぶ常総大橋は、昭和54年2月に開通した長さ518mの橋で、両県を結ぶ交通の要衝です。命名は常陸国と下総国に架かる橋にちなんで名付けられました。

この橋が完成する前は、両県を結ぶ交通手段は、もっぱら渡し舟に頼るしかありませんでした。

昭和42年12月、下総町猿山と

河内村金江津間に架けられた全長263mの常総船橋は、鉄でできた船20隻を連ねた上に板を敷いた橋でした。徒歩で渡る場合は無料で自転車・自動車・バスなどは通行料が必要でした。しかし、利根川が増水する6月〜10月までの4カ月間は、板が取り外され渡し船で行き来をしました。

その結果、両県の交通が阻まれ地域開発の大きな障害となり、永久橋の早期建設が叫ばれ、昭和47年から7年の歳月をかけて常総大橋が完成しました。

今では、常総大橋周辺の水辺では、ジェットスキーや釣りなどのレジャーを楽しむ人々や、河川敷には町の花に指定されているコスモスが一面に咲き、訪れる人を楽しませ憩いの場所にご利用されています。



さざんかロード

滑河観音から下総高校までの約2kmには、さざんかの木が約260本植えられ、さざんかロードとも呼ばれています。

さざんかは日本原産で清楚な美しさはとても人気があります。冬になると殺風景になりがちな沿道に、赤・白・ピンクのかれんな花が咲き、道を行き交う人の目を楽しませてくれます。



下総町・大栄町

昔は水運、今は交通の要衝

利根川と常総大橋



さまざまな文化・芸術活動の拠点



大栄町コミュニティプラザホール

- ・多目的ホールで1年間の練習の成果を披露(左写真)
- ・工芸工作室で山野草の寄せ植えづくりを楽しむ(右写真)



平成3年にオープンした町の代表的な公共施設の一つです。吹き抜けのエントランスホール、明るく優しい光が射し込む談話ロビーは、ふれあい・憩いの空間として最適です。

収容人員500人余りの多目的ホールは、照明・舞台設備が整った本格的なコンサートホールです。大栄町の伝統芸能である、伊能歌舞伎の定期公演、春の「コミュニティまつり」や、秋の「ふるさとふれあい文化まつり」など、町民の文化・芸術の発信場所でもあります。

そのほか、約1万2,000冊の蔵書がある図書館、工芸工作室、視聴覚室、学習室、展示ロビーなど、多種多様な文化活動のニーズに応えるに十分な機能を備えています。



場所 = 大栄町松子398 大栄町役場隣 (JR成田駅から車で約25分)
 開館時間 = 午前9時～午後9時30分
 休館日 = 毎週月曜日、第3日曜日、祝日の翌日、年末年始
 問い合わせ = 大栄町コミュニティプラザホール (☎0478-73-7071)

奈土のおびしゃ



三叉路での神事

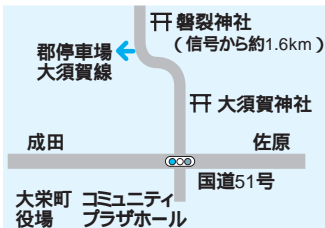
毎年2月13日に行われる奈土地区の伝統行事です。

早朝、磐裂神社に新旧の神主(1年間ご神体を守る当番の人)や区長などの役員が集まり、五穀豊穡・家内安全を祈願する神事が行われます。

午後からは神主宅で、神の依代(神が乗り移る木)を囲み、地区の人々とお神酒を酌み交わしたり、神楽の奉納が行わ

れます。さらに、新神主は家の近くの三叉路に出向き、再び杯のやりとりをして引き渡しの儀式が終了します。

古式にのっとった神事として整った形で伝えられたこのおびしゃは、平成4年2月千葉県記録選択無形民俗文化財に指定されました。



日時 = 2月13日(月) 午前8時から
 場所 = 磐裂神社 (JR成田駅から車で約35分)
 問い合わせ先 = 大栄町地域振興課 (☎0478-73-8070)